

# 平成28年度 芦原小学校学校評価書

28年度の集約

項目	具体的取組	評価者	目標指数(%)	結果(%)	成果と課題	改善策・向上策	学校関係者評価	
確かな学力①	授業研究を積極的に行い、わかる授業・できる授業の充実に努める。	日々教材研究や授業研究を熱心に行っている。	教職員	90	93	「伝え合い 学び合う」の研究テーマのもと、全教職員が教材研究や授業研究を行うことができ、教職員・児童・保護者共に目標指数を上回った。また支援員が生活面のみならず学習面でも細かく指導した。	教材研究や授業研究を引き続き行う。電子黒板やタブレットを効果的に取り入れる。また、校外の研究会・講演会で学んだことを職員会議などに伝え合うようにし、本校の実態に焦点を当てた研究を進めていく。	児童・保護者の評価が目標指数を上回っているのは素晴らしい。2割弱の理解できないと思っている児童について、きめ細かい指導をお願いする。今後も、外部の専門機関等の人材を活用するなど工夫に努め、児童が授業を楽しく受けられるよう、取り組んでほしい。
		授業が分かりやすくて楽しいと思う。	児童	80	83			
		日々の学習内容を理解していると思う。	保護者	80	89			
確かな学力②	漢字・計算マスターテストを実施する。	漢字の書き取りや計算力の定着を図っている。	教職員	90	100	マスターテストは数年間、継続して行っている。教職員・児童共に漢字の書き取りや計算に力を入れている。特に児童は進んで学習し伸びてきている。また、保護者にも漢字や計算の力が身につけていると実感してもらえた。	マスターテストは来年度も実施。再テストをして定着を図るが、個人の目標得点も設定して4回以内で合格できるように配慮する。目標設定については学年で話し合っておき、個人に配慮した再テストを実施する。マスターテスト表と生活チェック表を組み合わせにして、保護者に結果が伝わるようにする。	漢字・計算は、基本であり日々の生活の中で非常に重要な力であると考えている。また、児童は、マスターテストに向けて進んで学習に取り組んでいるようである。さらに結果(合格シールによる)が児童の励みややる気につながっている。今後も継続的にマスターテストを実施してほしい。
		家で漢字や計算の勉強に取り組んでいる。	児童	80	85			
		漢字や計算の力が身につけていると思う。	保護者	80	81			
	読書活動を推進する。	読書活動の習慣化を図っている。	教職員	90	87	「家庭読書の日」を設けたことで、家庭で読書をするきっかけとなり、教職員は読書を奨励することができたが、図書室利用の徹底ができていなかった。児童は朝活動など学校ではよく読書をしているが、家庭ではあまり読書をしていないので、保護者の結果は低いものとなっている。	「家庭読書の日」は引き続き実施。校内で読書カードを定期的に持ち帰る日を設定し、保護者にチェックしてもらう。多読賞も読書カードの欄に記入して保護者に見えるようにする。また、「家庭学習の手引き」を作成し、読書を奨励する一文を盛り込む。	ゲームやSNS等の普及により、読書離れや漢字離れが進んでいる。低学年から読書の楽しさを教え、少なくともいいから継続的に読書する習慣を身につけさせてほしい。また、保護者は、家庭読書の定着化を図るため、本を読む環境づくりを行うべきである。
		学校や家庭でよく本を読んでいる。	児童	80	71			
		学校や家庭でよく本を読んでいると思う。	保護者	80	43			
健康で安全な態度①	生活スローガン「あいさつ」を実践できる児童の育成に努める。	清掃の指導・監督を徹底する。	教職員	90	100	真面目に清掃に取り組む児童がほとんどであるが、児童評価結果が目標指数に達していない。ついおしゃべりをしてしまったり、清掃時間の終盤に集中力がなくなったりした点の自己反省によると思われる。大勢の児童に、清掃前の黙想や無言清掃も定着してきているので、これからは全員の児童が集中して清掃できるようにしていきたい。7月、12月、3月に与えられる「おそうじがんばり賞」により、我が子が清掃活動に真面目に取り組んでいることを保護者も知ることができ、保護者の評価結果も94%と高まったようである。学校公開でも、ごみ一つ落ちていない校舎で、保護者からも綺麗だと感想をいただいた。	これからは教師が、一緒に雑巾がけをしたり、率先して机の上げ下げなどをするので、児童の清掃への意欲と責任感をさらに高めていきたい。毎月の清掃目標を月初めに児童に知らせるとともに、「そうじがんばりチェック週間」を活用して、具体的な清掃ががんばりポイントを身につけさせていきたい。担当教員も指導の発言を減らし、校舎内全体が黙々と全員で無言清掃ができるようにしていく。清掃班長会の時に、下学年の子への接し方や清掃の悩みなどを話し合っていく。月末大掃除では、普段行き届かない箇所を清掃し、校舎に磨きをかけていく。	学校公開で拝見したが、校内は本当にきれいで清潔感があり、環境は素晴らしいと感じた。児童・教職員が一緒に清掃することで、児童の活動意欲につながっていると思う。「おそうじがんばり賞」により、児童が真面目に清掃に取り組んでいることが伺えるし、本人のやる気にもつながっていると思う。清掃を通じて物を大切にすることや整理整頓の重要性を指導してほしい。
		協力して、時間いっぱい掃除をすることができる。	児童	90	84			
		清掃活動に真面目に取り組んでいると思う。	保護者	80	94			
健康で安全な態度②	業間の体育的活動を充実するなど、運動の日常化を図り、体力の向上に努める。	業間の体育的活動や運動遊びの充実に努めている。	教職員	90	100	運動が苦手な児童も、業間マラソンに熱心に取り組んでいる。校内マラソン大会を目標にしており、業間の体育的活動への児童評価も高い。昼休みに、サッカーやバスケットボール、ドッジボール、一輪車、大縄跳び、雲梯、肋木などで友達と楽しく運動する姿が多く見られる。マラソン大会参観の保護者も多く、26、27年度に目標指数を下回っていた保護者評価も、今年度は81%と上がった。	これまでの、校内放送での昼休みの外遊び奨励に加え、体育委員会の取組として運動を計画していく。長縄跳びを勧め、体育館の白板に学級毎の記録を書き、更新していく。これによって、みんなで見合い、目標をはっきりとをもって運動していくようになる。年2回のマラソン大会を減らさず継続することで、タイムアップ賞など自分の伸びを実感できることもねらう。生活アンケートなどから、家ではゲームなどで過ごすことが多いという実態も踏まえ、少しでも運動をたくさんさせる意識をもつ。	業間マラソンは、児童一人ひとりに目標をもたせ、皆が取り組むことで苦手な児童も頑張れる。また、休み時間の外遊びや運動は、健康維持にもつながるため、積極的な奨励をお願いしたい。今の児童は、「スポーツ=習い事」みたいな感じでとらえている。自分自身が楽しんで、そのスポーツが心底好きという感覚があまりないのが現状である。少しでも体を動かすことが好きな児童が増えていくことを望む。
		校内マラソン大会で記録がよくなるように、業間マラソンを熱心に取り組んでいる。	児童	90	93			
		体力づくりに意欲的に取り組んでいる。	保護者	80	81			
規範意識①	集団で生活するための基本的なきまりやマナーを身につける指導実践に努める。	元気ある挨拶や大きな返事をする指導をしている。	教職員	90	100	今年度も児童運営委員によるあいさつ運動や、地区ごとのあいさつ運動などの取り組みを行い、目標指数を達成することができた。児童は元気にあいさつをしていると思っているし、またできる子が多いという結果であった。しかしながら、おしゃべりに夢中になって大人の側からあいさつをしないと気づかない場合があったり、あいさつの声が小さい児童や全くあいさつを返さない児童がいたりする。また、その日の気持ちが影響したり、曜日に関係する場合もあったりする。常に元気なあいさつをしようという気持ちをいかにさせることが必要だ。	委員会でのあいさつ運動を通年でやっているが、4月に登校班単位でのあいさつ運動、10月に学級単位でのあいさつ運動を実施して、低中学年にもあいさつの意識を高める。児童運営委員会でも元気な声であいさつするための取り組みについて話し合い、児童が主体となった取り組みを進める。また、地区子ども会の振り返りの時間に、地域であいさつができたかについて話し合う時間を持ち、登校時のあいさつの意識の向上を図る。	あいさつはコミュニケーションの基本であり、元気な声で取り組んでほしい。登校時のあいさつ運動などいろいろな取り組みの結果がでており、保護者の評価も年々高まってきている。継続的な指導をお願いしたい。
		進んで挨拶したり、大きな声で返事をしている。	児童	80	89			
		基本的なマナーが身につけていると思う。(先生や友だち、地域の人への挨拶)	保護者	80	91			
規範意識②	当たり前だが、当たり前前のできる児童の育成に努める。	学校で決められた約束事の指導に取り組んでいる	教職員	90	100	学校で決められている約束事を守れたという児童が増えた。朝礼時に早く集まって静かに待つこと、話を静かに聞くこと、清掃前の黙想が定着し静かに待っていること、授業のルールを守って授業を受けていることなど、落ち着いて学校生活を送れている。月初めに自己の目標をたて、月末の1週間は自己チェックを行う流れが定着した。しかし、前年は減った廊下を走る児童がやや多くなり、また体操服の裾を出したり、ズックの踵を踏んだりして、身なりが整わない児童がいた。	自己チェックは定着しているが、個人の意識の違いがあり形式だけになっている児童もいる。振り返りをする時間を、掃除の後か帰りの会と決めて、しっかり振り返りができるようにする。廊下を走ったり、服装が整わない児童は、道徳での学習や学級指導を通して児童同士で教え合うことが望ましい。しかし、それらの行動が交通事故や心の荒れにつながる場合もあるので、教師が常に声をかけることによって正しい習慣が身に付くようにする。	当たり前前のできるように子どもを指導するのは、教職員だけでなく保護者にもその責任があると思う。親があいさつをすれば、子どももあいさつができるようになる。他人に注意されることが少なくなった今、親の接し方で子どもが変わる。小さいころから決まり事(校則)は守らないといけないものだという事を、理解できるよう指導してほしい。できないのは一部の児童だと思いが、そういう児童には目をかけてあげてほしい。
		学校で決められている約束事を守っている	児童	80	95			

思いやりの心①	異なる意見や考え方を尊重し、個を大切にした指導の充実に努める。	話し合い活動や発表活動を実施している。	教職員	80	79	教職員・児童・保護者共に向上している。相手の思いを聴き取ることもできつつある。縦割り班の活動では高学年は低学年の世話をよくしており、低学年も素直に楽しめている。	教職員は、授業に話し合いや発表ができるような学習活動をしていく。児童にも「自分の思いを伝え、他の思いを受け止める」ことが思いやりにつながることを体験を通して理解させ、学習にも取り入れていく。また、休みなどに自主的な発表の場を設けて異学年との交流を図る。	この項目だけ教職員の評価が低い。研修や授業研究に積極的に取り組んでほしい。また、教職員は毎日大変だと思うが、児童の思いを受け止め、個を大切にした指導をお願いしたい。縦割り班での活動は、思いやりの心を育成する絶好の場であると思う。意見交換できるコミュニケーションの場をたくさん持ってほしい。
		様々な学習活動や生活の場面で、自分の思いを伝え、他の思いを受けとめることができる。	児童	70	77			
		一人ひとりを大切にしたり、自他の命を大切にしたりする取組や指導を行っている。	保護者	70	90			
思いやりの心②	道徳の時間をはじめとし、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てる。	道徳の時間をはじめ、体験学習や交流学習等を通して、思いやりや感謝の心を育てている。	教職員	80	100	教職員・児童・保護者共に目標指数に達することができた。ふれあい集会で外部講師より「思いやりの心」を体験を交えて教えていただき、「思いやりの心」の伝え方が児童に浸透してきた。また、別の集会でも見守り隊の方に来ていただき、感謝の心を伝えることもできた。	来年度も体験を通して「思いやりの心」や「感謝の心」が伝わるような機会を設ける。「わたしたちの道徳」を利用して、学期に一度は家庭との連携がとれるようにする。	目標指数をはるかに上回る素晴らしい結果がでている。思いやりの心が育っていれば、いじめの心配もなくなる。思いやりなどの心情面は大切だと思うので、機会あるごとに話をしてほしい。
		思いやりや感謝の心が育っている。	児童	80	92			
		思いやりや感謝の心が育っている。	保護者	80	90			
	いじめの防止等の対策に取り組み、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境づくりに努める。	いじめに対し、未然防止、早期対応に努めている。	教職員	80	100	教育相談のアンケートや「いじめさらい宣言」を実施して、一定の効果が得られた。定期的に教育相談やいじめ対策委員会を開いたため、教職員・児童共に目標指数に達している。「いじめ防止基本方針」を4月に配布したが、周知が不十分である。しかし、学校はいじめのない学校や学級づくりに取り組んでいるという保護者の評価は良好である。	アンケート・教育相談・アンテナ会議・いじめ対策委員会を引き続き実施し、いじめの未然防止に努める。保護者に「いじめ防止基本方針」が十分に理解されていないので、粘り強く知らせるとい。「スマートルール」を定期的に配布してインターネットの家庭でのルール作りの参考にしよう。	いじめは、社会的課題として今後とも十分対応してほしい。家庭環境や様々の要因が複雑になっている。教職員が感性を鋭くして一層の未然防止に努め、児童・保護者の評価が上がりなく100%に近づくことを願う。
	いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいる。	児童	80	87				
	いじめのない学校や学級づくりに取り組んでいると思う。	保護者	80	89				
	「いじめ防止基本方針」を理解している。	保護者	70	45				
2学期制の施行	授業時数の確保を心がけ、時間をかけた丁寧な指導を行う。	楽しくわかりやすい授業を行うとともに、時間をかけるよう心がけている。	教職員	80	100	教職員・児童・保護者ともに目標指数を上回る結果となっているが、教職員の丁寧な指導の成果が児童や保護者に十分実感されているとはいえない。授業時数を引き続き確保するとともに、個に応じたきめ細かな指導を実施しやすい物的・人的環境を整えていくことが大切である。	2学期制の利点を生かして授業時数を確保して時間的な余裕を生み出すとともに、学級担任だけでなく支援員等の配置を工夫して個に応じた指導が実施しやすい指導体制をつくっていく。	授業を参観した際、非常にわかりやすく楽しい内容であった。丁寧な指導や個に応じた指導などの結果がでているので、引き続きお願いしたい。
		先生は、楽しく分かりやすい授業をし、時間をかけて教えてくれる。	児童	80	88			
		一人ひとりを大切にしたり、分かりやすい授業を行うなど、授業改善に取り組んでいると思う。	保護者	80	86			
2学期制の施行	児童生徒とふれあう時間を増やし、きめ細かな対応を心がける。	日常の対話により児童の実態を把握するように努め、きめ細かな対応を行っている。	教職員	80	100	教師は限られた時間の中、個々の児童に応じたきめ細かな対応を行うように努めている。しかし、全ての児童が教師とのふれあいの時間が十分であると感じているわけではない。教師に時間的な余裕をつくることと、全ての児童とふれあう機会を意図的につくっていくことが大切である。	児童とふれあう時間をつくるために、業務の効率化を進めるとともに、面談や児童とともに活動する機会を計画的に設けていく。また、日常的なコミュニケーションを図るために、遊びや日記等の児童と交流する手立てを増やしていく。	目立たない子やみんなの中に入っていけない子、伝えたりアピールしたりすることが上手な子やそうでない子、児童も様々である。児童とふれあう時間を少しでも多くつくと、児童の個性をより一層把握し、信頼関係を深めていってほしい。
		先生と、学習や生活について話をする時間がある。	児童	80	80			
	事前指導を丁寧に行い、長期休業を学期の途中として取り組むための効果的な手立てを講じる。	長期休業を「学期の途中のもの」とし、休業中の支援を意図的・計画的に行っている。	教職員	80	100	学習の継続性を大切にしたり働きかけにより、教職員・児童・保護者ともに目標指数に達することができている。引き続き長期休業中も学期の途中であるということについて理解を促すとともに、日常の学習指導の中でも児童自身に目標をもって計画的に学習に取り組む態度をつくっていく必要がある。	自主学習の指導を通して、平素の学習指導でも自分の課題を意識し計画を立てて学習に取り組む態度を育てていく。合わせて、長期休業中の学習会などを利用して、個々の児童の課題に合った指導を行っていく。また、保護者へ長期休業中の学習への協力を求めていく。	自主学習の取り組みは、ただノートを埋めれば良いと思っているようなので、もっと具体的にどういうことをしたらよいか指導してほしい。二期制から三期制に戻すのはどうか。二期制のメリットがあまり感じられない。長期休業中は、子どもがだらだら過ごさないよう、親がしっかりと監視すべきであると思う。
	夏休みは、計画的に課題に取り組むことができた。	児童	80	84				
	夏休みの期間中は計画的に課題に取り組んでいる。	保護者	80	82				
開かれた学校	学習や生活の様子を伝えるための資料を工夫し、児童や保護者に対して丁寧な説明を行う。	児童や保護者に対して、学習や学校生活の様子を丁寧に伝え、共通理解を図っている。	教職員	80	100	児童の学習の取り組みや成果、学校生活の様子分かるように、保護者会での資料配布や児童作品の掲示等により学校での姿を工夫して伝えているので、保護者の理解は高まっている。児童に自分自身の活動を振り返り、自分の成果と課題に気づかせていくことも大切にしていかなければならない。	引き続き保護者会の資料を工夫するとともに、学校・学年だよりやホームページ等を通じて、児童の学校での様子を具体的に伝える機会を増やしていく。また、活動ごとに振り返りの場を設けることにより児童自身に自己理解の目を育てていく。	個人懇談や通知表を通して、子どもの学習や生活の様子を詳しく知ることができている。オープンスクール(授業公開)の機会を増やしてほしい。
		先生との面談やふり返りにより、学習や生活の様子について考えることができた。	児童	80	84			
		個人懇談や通知表により、子どもの学習や生活の様子について詳しく知ることができた。	保護者	80	93			
開かれた学校	教育活動を積極的に公開する。	計画的に学校を公開する。	教職員	80	100	年度初めの学校開放日の連絡や学年だより等による広報により、学校公開を利用して教育活動を理解する保護者が増加している。保護者の来校の機会を利用して、保護者の意見を聞くアンケートを本年度行った。学校公開により保護者の学校への理解を促進するとともに、保護者の意見を伺う機会としても活用していけるとよい。	保護者が来校しやすい期日・日程の設定や学校開放日の広報を継続して行っていく。全ての児童が活躍できる場や保護者が参加する場を設けるなどして内容的にも工夫していく。また、保護者の意見を収集する手立ても続けていく。	昔のように、学校に任せきりでは現代の子どもは育たないと思う。学校・保護者・地域が一体となり子どもへの教育が成立すると思うので、今後も学校へ保護者だけでなく地域も巻き込み活動することを望む。学校公開は一日設けているので、どこかの時間で子どもの様子を見に行けるので良い。ケースバイケースで保護者と時間調整し、情報機器で連絡等意見交換を行うと良い。
		学校公開に多くの保護者が参加することができる。	保護者	60	76			
		学校での子どもの様子や活動ぶりを知ることができる。	保護者	70	83			
	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	おたよりやホームページ等を通して、適切に情報発信を行う。	教職員	80	87	学校・学年だよりを定期的に発行したり、緊急時にメールを発信したりして、保護者への情報発信を積極的に行った。ホームページの更新については頻度を増やし、学校の様子を随時伝えていくようにすることも大切である。	学校・学年だよりにより、保護者が求めている情報を着実に提供するとともに、学校や学級担任の考えも伝えていき、保護者との連携を深めていく。ホームページによる情報発信を増やすために、担当者を増やしたり、内容の見直しをしたりする。	学年だよりやあしのいづみを通して、学校の様子を知ることができている。保護者と学校が情報の共有化を図り、さらに信頼関係を深めていってほしい。
	保護者が、知りたい情報を知り得ることができる。	保護者	80	88				